

このコーナーでは、
営農指導員から、農業のちょっと
したコツをお知らせします。

農業振興課農畜産振興係 ☎0824-73-1227

野菜作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 譲

移行作業でしっかり収穫！

夏野菜の収穫もピークを過ぎると、秋冬野菜のスタートです。この時期の菜園は、夏野菜の片付けや、まだ収穫できる野菜の管理、秋冬野菜の種まきなどで大忙し。タイミングを逃さないよう、しっかり移行作業を行いましょう。

春夏〜秋冬の野菜が同時進行 夏の終わりは忙しい

夏から秋への季節の変わり目は、春夏野菜と秋冬野菜の入れ替え時期です。夏野菜は収穫のピークを過ぎて少しずつ収穫が減ってくるので、切り上げ時期を見極めて片付けを進めます。

一方、秋冬野菜の準備も始まります。ハクサイ、ダイコン、コマツナなどは順次種をまき、ホウレンソウやカブは暑さが落ち着く9月中旬以降にまきます。

秋冬野菜は、暑い時期に作付けを行い、収穫時には気温が低くなっているのが特徴です。作付けが1週間〜10日遅れると、生育に大きな影響を及ぼすため、適期の種まきと定植が順調な生育のポイントです。

秋まで残す野菜の処理

ナスやピーマンは、暑さの影響で一時的に実つきが悪くなりますが、涼しくなると株の勢いが回復し、10月中旬ごろまで収穫を楽しめます。ナスは8月上旬までに更新剪定と追肥を行い、ピーマンも追肥をして、長く収穫できるように管理しましょう。暑さに強いオクラやゴーヤは、残暑の中でも元気に実をつけるため、肥料切れを防ぐよう追肥を続けます。

これらの夏野菜は、10月中旬を目安に片付け、秋冬野菜へ切り替えます。この時期がコマツナやホウレンソウの種まきの最終時期で、これより遅くなると、気温の低下によって十分に育たなくなります。

土壌酸度を再調整

前作を片付けたら、石灰質資材を施してよく耕し、土壌酸度を整えましょう。石灰不足は生育不良や病気の原因になります。多くの野菜はpH6〜6.5（ホウレンソウなどは6.5〜7）が適しています。

秋冬の畑作りのポイント

深く丁寧な耕すことが基本です。ダイコンやニンジンなど根菜類は、石などに根が当たると形が悪くなるため、深く耕しましょう。難しい場合は、畝を高くして対応します。

花作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

夏季の花弁栽培管理ポイント

気象庁の暖候期予報によると、本年も厳しい暑さの夏が続くとのことです。

これから人間だけでなく、植物にとっても過酷な季節となります。少しでもきれいな花を咲かせ、鮮度を長く保てるように、手助けをしましょう。



1 強い日差しを和らげる

赤道に近い地域原産の一部の植物（トウモロコシなど）以外は、強い日差しが生育のストレスにつながります。強い日差しに弱い花卉をスモーズに生育させるには、寒冷紗で覆うことや、十分にハウス内へ風を通すことなどが大切です。

2 水分補給をする

高温で乾燥した日が続くと、水不足になりやすくなります。日中の水やりは根を傷める恐れがあるため、早朝の涼しい時間帯にたっぷりと水を与えましょう。

3 虫から守る

高温で乾燥した日が続くと、一般的に害虫の発生が多くなる傾向があります。

特にダニ類は、短期間で急激に増え、体が小さいため発見が遅れがちです。気付いたときには被害が広がっていることも少なくありません。被害が広がる前に、小まめに観察し、害虫を見つけたら早めに防除しましょう。

4 花の鮮度を保つ工夫

高温・乾燥の環境では、花の鮮度を保ちにくくなります。次のポイントを意識しつつ、少しでも生育しやすい環境を整えることで、きれいな花が咲き、長く楽しむことができます。

- ・ 涼しい環境をつくる
- ・ 地温を下げる工夫をする
- ・ 水やりは早朝に行う
- ・ 病害虫を早めに防除する
- ・ 切り花は早朝に収穫する